

[メルディア]

一般財団法人メルディア広報誌

MELDIA



働く
描く

障がい者と共に

障がい者と共に

大矢真那による取材

株式会社あしか×大矢真那

布施博による取材 布施博が訊く

「農福連携」について訊く

障がいとアート

つながるひろがるアート展NASU

人気連載エッセイ 障がいのある息子と私

水越けいこの「M size/はじまり」

月刊メルディア
VOL.14
TAKE FREE

MELDIA

2019
FEB. VOL.14

月刊MELDIA VOL.14 2018年12月25日発行(毎月1回25日発行) 第14号 通巻14号
発行所 / 一般財団法人メルディア事務局 〒163-0632 東京都新宿区西新宿1-25-1 新宿センタービル32F

TAKE FREE



Design Your Life

MELDIA
GROUP

同じ家は、つukらない。



メルディアグループ

<http://www.meldiagroup.com/>

株式会社三栄建築設計
〒163-0632
東京都新宿区西新宿1-25-1
新宿センタービル32F

25th
ANNIVERSARY

まだ25年、
これからのメルディア



株式会社あしか 東京都新宿区

パソコンを使用した 業務を得意とする 旅行会社が母体の ユニークな事業所

東京新宿区、新宿御苑からすぐの場所で就労継続支援A型施設を運営する「株式会社あしか」は精神・発達・知的障がいがある人の約30名が利用している。意外なのは、同社の代表取締役を務める酒井陽子さんは、もともとは旅行会社の社員だったということだ。会社のオーナーが、たまたま自由で開放的な考え方だったため施設を開業するに至ったのだが、その不思議な縁の巡り合わせから始まった、人や仕事との様々な出会いについて、大矢真那がお話を聞いた。



福祉の世界とは 関係のない 旅行業界から 突然の転身



大矢 会社のホームページを見せて頂いたんですが、楽しめる作りになっていて、社長もお若い女性で明るい雰囲気。会社という印象を持ちました。どんなきっかけでこちらの会社を始めたのでしょうか。

酒井 実は私、福祉の業界とは全く無関係の旅行会社で働いていたんです。その会社のオーナーが障がい者と一緒にイルカと泳ぐ旅行ツアーの企画をしたり、脳性麻痺の人と一緒にプールに入ったりするような、障がいがある・なしを全

く気にしない人だったんですね。そこで就労継続支援事業に興味を持つようになって、知り合いのツテで名古屋のとあるA型事業所の視察をさせてもらったのだそうです。とても良い感じで運営がなされていたので、オーナーが「自分でもやってみよう」ということになって。それで、部下の私に「責任者としてやってくれないか？」という話になったんです。大矢 でも、酒井さんも福祉畑の人ではなかったわけですから戸惑ったんじゃないですか？

酒井 私も見学に行っただんですけど、みなさんがキラキラと輝いている職場で、実際に働いている人に話を聞いてみると、「働ける場所があつて嬉しい」と言っています。それで、私自身も「やってみよう」と思うようになったんです。それから、13年の2月に会社を設立しました。それが設立のきっかけです。

大矢 「あしか」という社名もかわいいですね。

酒井 旅行会社の方ではイルカのツアーをメインにしていたんですが、なにしろオーナーが海の動物が大好きなんです。それで、「あしかにしよう」ということになったんです。でも、特にあしかに深い意味は無いんですが(笑)



大矢 真那

Masana Oya



大矢 海がテーマということなんです。そのイルカのツアーにたまたま障がいのある人も参加されていたんですか？
 酒井 はい。その方は、もともとオーナーの友達だったんです。それで普通に友達同士で一緒にツアーに行こう」という話になって。オーナーは別のツアーでも、電動の車いすに乗った人と普通に旅をしていたような人なんです。福祉育才ではないから逆に「福祉では出来ないことをしたい」という思いがあったようです。障がいのある・なしだなんて、「同じ人間なんだから関係ないじゃん」という考え方がこの会社では強いと思います。
 大矢 すごく開放的というか、自由な考え方でいいですね。
 酒井 全く堅苦しくは考えていませんね。配慮

すべきは配慮しますが、それ以外では、同じ人間同士ですから。
 大矢 「あしか」さんの設立の経緯や事業の特徴を教えてください。
 酒井 新宿に会社を設立したのは、母体となった旅行会社が新宿にあったからというのが理由なんです。当時、新宿には他にA型事業所が1ヶ所あったんですが、そこが清掃事業をしていたので、清掃以外の事業にしようと思ったんです。それと、今の時代、パソコンを使う仕事なら需要も多いだろうということで、データ入力やネットショップ業務などのパソコンに特化した事業を中心にしています。あと、軽作業のお話があればそれも請け負います。以前には軽作業もやっていたから、納期に間に合わせるために「みんな一致団結する」というのも得意分野なんです。
 大矢 イラスト制作もされているようですね。
 酒井 業務内容全般に言えることなんですけど、ここでは「今あるこれをやるだけ」っていうこ



とはしないんです。例えば、パソコンを使った業務でいえば、以前ではホームページ制作もやっていました。それは、ホームページの制作が得意な人がいたからだったんです。何かが得意な人がいたら、その得意な部分を生かしてもらいたい。データ入力でも、決められた仕事だけやっていたら良いというだけでは面白くないじゃないですか。本人たちはめっちゃくちゃ絵が上手だったり、デザイン力に優れていたり、とにかくみんな才能があるので、その才能を活かして仕事に、お金に、と事業にできることが楽しいと思って私はやっています。
 大矢 私はパソコンが苦手なので、それを仕事にしているっていうだけでも、すごいって思っちゃいます。元々パソコンが得意な人が多く集



株式会社あしか 代表取締役 酒井 陽子さん

Yoko Sakai

まっているんですか？
 酒井 ウチの事業所は年齢層がたぶん他所より若くて、現代っ子が多いと思うんです。だからパソコンに苦手意識がない人が多いんじゃないかな。もっとも、パソコンに特化した仕事だから結果として得意な人が集まっているということなのかもしれません。
 大矢 やはり、好きで得意なものであれば頑張れますもんね。
 酒井 スキルは持っているのに、その仕事を頑張りが過ぎるために調子が悪くなっちゃう、なんていう人が多いのかな？ と思ってます。決まった時間内で結果を出すことを求められて、無理をしてしまう。その結果、具合が悪くなってしまいうこともある。無理をすること、具合が悪くなること、それは「自分が悪かったから」、「自分のせいだ」って考えてしまう人もいます。だから、ここでは自分のペースで仕事してもらって、それを続けていくことで再びステップアップしてもらえれば良いなと思います。
 大矢 まじめで頑張り屋な人が多いからこそなんじゃないかな。
 酒井 ウチは継続支援施設なので、もちろんずっと居てくれてもいいんです。でも、社会に目を向けて就職したいと考えている人が多いので、そのためのステップアップになれば、と考えながら運営しています。

一般財団法人メルディア

MELDIA

おかげさまで「一般財団法人メルディア」は設立1周年を迎えることができました。当財団では、障がいのある人を支援する活動と、スポーツ(サッカー等)を行う児童・青少年を支援する活動を通じ、広く社会と人々に貢献するため、これらの事業を行っています。

02 広報誌の発行

障がいのある方と、そのご家族への情報発信を行うため、フリーペーパーの広報誌「月刊メルディア」を毎月発行しています。毎月2万部強を発行し、現在は首都圏や中京エリアのイオングループとその系列店、イトーヨーカドーグループとその系列店、特別支援学校、障がい者支援施設等に配布しています。



04 サッカー支援

才能があっても家庭の経済的な事情などで、プロプレイヤーを目指すことをあきらめざるを得ない青少年たちの夢を応援し、支援するための「奨学制度」を設けています。2018年12月現在、選考会を経て選ばれた3名の若者に対する支援を行っています。



01 事業内容

- ① 障がい者及び障がい者を支援する団体等への助成および支援事業
- ② 様々な理由からスポーツ(サッカー等)を続けることができない児童、青少年に対する助成および支援事業
- ③ その他の事業



03 取材活動

広報誌「月刊メルディア」では、障がい者支援事業所、障がい者雇用を推進している企業、スポーツ施設、各種団体、障がいのあるアーティストなどに取材をさせていただき、それらを掲載しています。取材記を当財団のFacebookページにでも紹介していますので、是非そちらも併せてご覧ください。



05 サッカー観戦チケットプレゼント

Jリーグのシーズン開催期間中は、「湘南ベルマーレ」のホームゲーム観戦チケットをプレゼントしています。療育手帳または精神障害者保健福祉手帳をお持ちの人と介添者の人、2名1組(ペア)で試合を観戦できます。
※Jリーグのシーズンオフ期間中はチケットプレゼントはございません。



ALL ABOUT MELDIA

メルディアとは、「メダル」を意味する英語の「MEDAL(メダル)」とイタリア語の「MEDAGLIA(メダリア)」を合わせた造語となっており、^{ついで}終の棲家を手に入れる喜びを「^{すみが}栄光に輝くメダルを手に入れるような喜び」に見立てています。誰も人生は一度しかないものです。

その、一度限りの人生の夢の実現を、メルディアグループの住宅をお求めになるお客様と同じように、障がいのある人、経済的に恵まれない人、多様性のある多くの人たちの人生においても、「夢」を実現していただくための一助となれることを目標に、これからも当財団の社会貢献事業を進めて参ります。

■ 財団概要

名称 一般財団法人メルディア
(英文名: General Foundational Juridical Person MELDIA)
設立者 小池信三
設立日 2017年5月23日

所在地 東京都新宿区西新宿 1-25-1 新宿センタービル 32F
電話 03-5381-3213
URL <https://meldia.org/>
MAIL org@gf-meldia.com



MELDIA <https://meldia.org/>



facebook <https://www.facebook.com/gf.meldia/>



大矢 LINEのスタンプを販売していたり、YouTubeのチャンネルを設けたりと、常に新しいことを楽しんでいるように見受けられます。

酒井 私自身が「なんでもやってみればいい」という考え方で、そういうことが好きな人が来る」と「とりあえずやってみなよ」と。よほど事業として上手いかないようだったら止めるけど、とりあえずやってみてもらっています。そうやって少しずついろいろな取り組みが増えていったんだろうと思います。

大矢 一方で事業を継続していく上で大変なこともあるかとは思っていますが？

酒井 そうですね。「やりたいこと」と「出来ること」はやはり別なんです。「クライアントさんありき」の仕事でもありませんし、経営的にも、ある程度は利益を追求しなければなりません。でも、しっかりした仕事を継続してきたことでクライアントさんとの信頼関係も生まれてきたようです。また、クオリティーの維持と管理を徹底してきたことによって、新規のお客さんが付いてくれるようになりました。

大矢 今後の展望についてお聞かせ下さい。

酒井 継続してウチを利用して頂けるクライアントさんが確実に増えてきています。これからは、当社はデザインの制作もできることをもっと多くの方に知ってもらって、そこからさらにお仕事の幅が広がれば良いと考えています。

元々やっていたことと全く違う仕事をイチから立ち上げてここまで上手くやれている酒井さんに、同じ女性として尊敬できる方だな、という印象を抱きました。それはたぶん彼女に、「楽しんで仕事をしよう」という姿勢があるから続けられて来られたんだろうと思います。自由で偏見のない社風が今回の対談中、至る所から感じられて、お話を聞いて楽しいと思える時間を過ごせました。

取材・大矢真那



株式会社あしか
東京都新宿区新宿一丁目2-8国久ビル5階A室
TEL / 03-6273-1021
<http://ashica.net/>



俳優・布施博と
厚生労働省・石井悠久氏が対談

障がいを取り巻く 現状とその未来を 考える

前号で特集した「布施博×全国ナイスハートバザール2018 in ながの」。この取材の後、布施と厚生労働省・障害福祉課の石井悠久氏による対談が行われた。先の対談では同バザールの主催者や運営者らから、主に利用者の工賃向上や施設の地域との関係性などに関しての意見を聞くことができた。

その後行ったこの対談では、先の取材で交わされた意見も踏まえ、障がい者、障がい者向けの施設の現状や未来、施設外就労、農福連携などの話について、厚生労働省のスタンスと石井氏本人の意見を訊いた。

農福連携

布施博が訊く



厚生労働省 社会・援護局
障害保健福祉部 障害福祉課

石井悠久

俳優

布施博

1にも上る人たちが何らかの形で「障がい」に関わっているということになるわけですね。石井 はい。それでも少なくとも見積もった場合の数ですが、この数値は恐らく一般的なイメージよりずっと多いのではないのでしょうか。

布施 確かに多いと思います。石井 私見ですが、障がいのある人と共に地域で暮らすことが「当たり前なこと」となるよう、就労支援など障がいのある人の社会参画を目指す取組は、今後も引き続き推進していく必要があります。

布施 多くの人が携わっている現状を見れば、「支援活動が必要」というよりは、「やらない方がおかしい」と言えるかもしれません。石井 また、今後の日本を何十年単位かで考えた場合、日本の総人口が数千万人という規模で減少すると予想されています。そのことに鑑みても、障がいのある人の就労支援を通じた社会参画の推進は、日本の将来にとっても、極めて重要な問題なんです。



布施 障がいのある人が社会参加をして行くという点において、厚生労働省が「目指す先に」とはどのようなものなのでしょうか？石井 たくさんある目標の一つではありますが、

今回の「全国ナイスハートバザール2018 in ながの」という言葉が一つのヒントになると思います。布施 そう書かれていましたね。石井 「農福」とは「農業」と「福祉」の2つを指し、障がいのある人などの農業分野での活躍を通じて、自信や生きがいを創出し、社会参画を促す取組です。現在、地域によっては農業の担い手が減り、耕作放棄せざるを得ない土地も増えてきています。今後は日本の人口減少に伴い、地域において農業の担い手不足が更に深刻化していくことは予想されています。布施 そうなる可能性もありますね。石井 農家の人たちが所有する田畑は、先祖代々、古くから受け継がれていることも多いと思います。私も直近まで、とある中山間地域の市役所に出向していました。先祖代々受け継いだ田畑に対して、農家の方々は並々ならぬ思い入れが当然あるでしょう。一方で、農業の担い手の高齢化や人手不足により、十分な手入れが出来ず、やむをえず耕作放棄地になってしまっているという田畑も少なくないと受け止めています。布施 それは悔しいことだろうね。

布施博が訊く 「農福連携」について訊く



全国ナイスハート
バザール 2018
in ながの



俳優

布施博

Hiroshi Fuse

施設利用者の工賃向上を図りつつ
地域に根差した仕事を守ることに繋がる
「農福連携」は新しい力となり
それが日本の未来を担うことになるだろう（布施）



厚生労働省 社会・援護局
障害保健福祉部 障害福祉課

石井悠久

Chikahisa Ishii

全人口の数10%が何らかの形で
「障がいのある人と関わりがある」現状も踏まえ
「国としても、あらゆる取組を推進して
いかなくってはならない」（石井氏）

確かに工賃は上がって来ています。国としては、この水準が引き続き向上していくことを目指しています。でも、私は上がった金額以上にその理由には可能性を感じています。布施 その理由って何ですか？石井 私見ですが、1つは社会全体の「障がいへの理解度」が深まって来たからでしょう。しかし、それ以上に、利用者さんや施設の職員さんの日々のご努力により就労施設で生産される商品の質が上がってきたから、というのが理由としては大きいと思います。布施 その意見に賛成だね。一般の商品と比べても何ら遜色のない商品ばかりだし。石井 利用者さんに支払われる工賃が「上がった」というだけではなく、「仕事の成果として商品やサービスが一般的に認められた」結果として上がっていているというのが、とても喜ばしい事だと思えますね。布施 しかし一方で、就労施設が生産する商品でも食品表示の義務履行を求められるようになってきたという意見もありましたが。石井 そのような意見については、

の関係であると言えます。布施 それが一番、厚労省の目指す先だと。石井 はい。「農福連携」にあるように、地域において、各所の施設利用者さんたちが、「地域を支える担い手」として活躍してもらえたら、と厚労省では考えています。布施 「地域を支える担い手」ですか。面白い考え方ですね。「全国ナイスハートバザール2018 in ながの」の主催者や運営の人たちから、「就労施設で地域の名産を使用したものを製造・販売することでその地域の発展にも繋がる」という話を聞いたんです。それも随分と感心しました。でも、もっと手前の段階で、農作物など材料の生産の段階から地域を支えていくことができる可能性すらあるという事ですね。石井 その通りです。布施 現状の施設利用者さんの工賃については石井さんはどうお考えですか？石井 現在、就労施設で利用者に支払われている工賃月額額の全国平均は約1万6千円です。一昔前は1万2千円程度であったことを踏まえると、厚労省にも届いています。これは私見ですが、この問題は、就労施設で生産する商品の質や量が上がったことと伴って発生したものだと思っています。要するに、施設の商品の質が一般の商品と全く遜色ないところまで来たんです。一般の商品で求められることが、就労施設で生産する商品にも当然求められるようになったとも考えられるんだと思います。布施 確かにそういうことなのかもしれないね。他にも厚労省が目指す先はありますか？石井 私が担当する障がい福祉という観点からになりますけれど、一つ大きなものとして、障がいのある人の「一般就労」への移行をもっと進めたいと思っています。障がいがあっても働く意欲と能力があれば、一般の企業で健常者と共に働く。それが最も目指すべき、健常者と障がい者の「共生社会」だと思えますから。布施 そこを見誤っちゃいけないよね。「支援する」というのは、障がいのある人たちが持つ可能性に俺たちが未だ気付けずにいる部分があるから、「支援」って言っちゃうんだらうから。

石井 違う見方をすれば、農業はある地域に根差し、その場所を支えてきた仕事だとも言えます。そのような田畑を十分に活用していくことが出来れば、仕事を創出することができ、地域再興にも繋がっていく可能性があると感じています。その力になってくれるのが就労施設を利用している障がいのある人たちだと思っています。農家の人たちにとっても、「誰がその地域の田畑を守っていくのか」という地域課題の解決に繋がります。布施 それで、「農福連携」という考え方が出てきた、と。石井 そうですね。一部の就労施設では、その利用者さんたちが、農家と契約を結んで、圃場（※）など施設の外部へ「施設外就労」として赴き、そこで農業に従事するという形態も増えてきました。布施 それには農家の人たちにも喜ばれているか。石井 施設外就労は農作業自体が就労訓練になることに加え、利用者に支払われる工賃の確保にも繋がります。担い手不足に悩む農家の人たちにとっても農作業の人材が地域で確保出来る。まさに、「WIN・WIN」

※圃場【ほじょう】／畑や菜園などのこと





芸術は健常者と障がい者
という垣根を超える
芸術で開花する才能は
どこまでも「ひろがる」

壁一面に貼られた千匹もの魚たち。その数に圧倒されるだけでなく、まるで群れをなして水流の中を泳いでいるかのよう。中には「サンマの開き」も。



栃木県那須塩原市で開催の「つながるひろがるアート展NASU」は、障がいのあるアーティストたちの作品を展示するアート展だ。回を重ねるごとに来場者からの好評を得て、近年では同展を目標に遠方からも那須に訪れる人も増えているという。那須地域の多数の場所に展示されている作品群が、「障がい者アート」という垣根を超え、多くの人を魅了している証拠に他ならない。同展の実行委員を務める清野隆さんと北原秀章さん、同展の展示協力をしている施設の一つである「蔵楽」の猪口直久さんにお話を伺った。

つながるひろがるアート展 NASU / 2018年11月3日～25日 ※本誌の発刊時には期間が終了しています



左から大橋はるか、清野隆さん、北原秀章さん

障がい者アーティストと共に
力を合わせより多くの感動を

大橋 「つながるひろがるアート展NASU」も今年で10回目を迎えられたそうですね。
清野 はい。当初から「10回は開催しよう」という目標があって、今年がその10回目です。
大橋 昨年は17会場での展示が行われていたのに対し、今年は15会場での展示だそうです。何か意図があつての事なんですか？
清野 会場の数は前回から比べると少ないですが、それぞれの会場の展示内容をより充実させました。アート作品は「ある程度一カ所に集まっていた方が、観る側にとっても、自分のペースで観ることができ、より多くの感動が得られる」という考えがあるからなんですよ。
北原 展示している作品数は約180点と昨年と同じ規模ですが、今年は新しいアーティストも加わって、参加アーティストの数は述べ40名くらいになっています。
大橋 展示会場を回りやすくなって、しかも新しいアーティストさんが加わって、今年も見応えがありそうですね。
清野 この「つながるひろがるアート展NASU」の開催当初からやっているスタンプラリーも好評ですよ。



大橋 そのスタンプラリーの特典の引き換え場所がこの「ギャラリーバーン」とのことですが、まずここに入っただけで、すぐに壁の魚のアートに圧倒されました。
清野 この壁には全部で千匹くらいの魚が泳いでいますね。ある障がい者アーティストが描いた魚の絵を拡大縮小コピーなどして、こんな感じで壁に展示してみました。
大橋 すごい！アーティストさんと清野さんとのコラボレーションだったんですね。
清野 どうすれば、なるべく多くの魚の絵を皆さんに見て貰えるかその方法を考えたんです。それで、壁の全体に魚の絵を貼ってみたら面白いんじゃないかな？と閃いたんです。
北原 この魚の絵を描いたアーティストは、アトリエではいつも「怪人の絵」を描いているんです。でも部屋に帰ると、密かに一人でこういう魚の絵を描いていて、それを魚釣りが好きな職員にあげていたそうです。その職員が、貰った魚の絵を密かに全部貯めておいてくれて、今回こうして展示して見るようになったんです。
大橋 そっだったんですね。

北原 誰かにあげるために描いた絵であっても、貰った人が取っておいてくれたらそれは作品として残るんですが、絵を貰った人がアートに関心がないと、破棄しちゃうこともありますよね。
大橋 絵を貰った人がアートに興味がなかったら、捨てられてしまう可能性もあつたわけですね。勿体ない！
清野 だから最近では、色々な施設で職員さんたちに、「作品は捨てずに全部取っておいて下さい」とお願いしています。職員さんがアートに関心や興味があるとないとでは、保存状況などからしても、だいぶ違いますからね。
大橋 作品って、描いただけじゃなくて、誰かに見て貰わないと「アート」にはならないですよね。額装してあるだけでも、「アート作品なんだ」とすぐに認識できますし。もちろん全ては素晴らしい作品があつてこそですが、それらの作品を「プロデュースする力」も大事なんです。



同アート展の実行委員会のご厚意によりアーティストさんたちの作品が載った「カレンダー」を抽選で10名様に差し上げます。ご希望の方はP28に記載の「一般財団法人メルディア事務局」までメールまたはハガキでご応募ください。 ※発送をもって当選とさせていただきます。



作品の価値と障がいは無関係
フラットに作品を観る必要性

北原 以前とある美術展で、障がい者アーティストと一般のアーティストの作品を同じ所に並べて、敢えて障がい者アーティストの絵とは明示せずに展示した事があったのですが、それには反響が多くて、すごく良かったですよ。

大橋 障がい者と健常者のアーティストの間に垣根を作らず、ボーダーレスな状態で作品を展示していると、観る側にとっても先入観なしのフラットな気持ちで作品を鑑賞できますね。面白い試みだと思います。

清野 以前は健常者アーティストの作品には高



ギャラリーバーン代表 / アーティスト
清野 隆さん
Takashi Seino

値が付くことがあります。障がい者アーティストの作品となると、付く値段が下がってしまいがちという厳しい現実がありました。でも近年では障がい者アーティストの作品にも高値が付くようになってきました。このアート展でも、比較的高い金額で障がい者アーティストの作品を購入してくれる人が増えたとです。

大橋 フラットに作品を観ることが出来る人が増えたからこそその成果かもしれませんね。

清野 今年は売れている作品も特に多いので、「障がい者アーティストの作品もちゃんとお金になるんだ」という事を周囲にアピール出来るし、それを障がい者アーティスト本人にも伝えられるという事が本当に嬉しいんですよ。

大橋 作品が売れたのを知られたアーティストさんたちの反応はどうですか？

北原 とても嬉しそうです。「自分を認めて貰えた気がする」という人もいましたね。そうなることで、アート展が終わってからも、モチベーションを高く保って絵を描くアーティストは多いんですよ。

大橋 周囲に自分を認めて貰えるっていうのは誰にとっても嬉しい事でもね。

清野 障がいのある人は、周囲に認められるという経験が比較的少ないんです。もし、良い絵を描く才能がある人が居たら、その才能をさらに伸ばしてあげることで周囲に認めさせてあげたいと思います。

大橋 それがこのアート展の使命でもあると。

清野 障がいがあるということで、周囲に認められる機会が少ないまま生きていくより、絵を



陶芸家 / 画家
北原 秀章さん
Hideaki Kitahara

描いて、作品を作って、楽しく暮らせた方がその人にとって充実した人生になると思っんです。

大橋 最後に、本誌の読者へ向けてのメッセージがあればお願いします。

清野 障がい者アーティストの作品を観る時に、一般アーティストの作品を観る時と同じ目線で観てみて下さい。先入観を捨てて、頭の中を真っさらにして作品を観れば、「こんなすごい絵があるんだ」と感動できる、素敵なアートがきっと見つかるはずですよ。



ギャラリーバーン
栃木県那須塩原市小結88-197
TEL / 0287-64-2288
http://barn.jp/



一般店舗での展示という窓口
更に繋がって広がるアート展

大橋はるか

猪口 尚久さん

——つながるひろがるアート展NASUの作品展示協力会場の一つでもある「蔵楽」の猪口尚久さんにもお話を伺った——

大橋 ここでのアート展の展示協力はいつ頃からやっているんですか？

猪口 アート展の存在自体は以前から知っていましたが、自分の店で展示するという機会をなかなか掴めずにいました。でも、ようやく去年から参加させて頂くことができました。

大橋 アート展の存在を知っていたということ、は、猪口さんご自身もアートに関心が？

猪口 そうですね。私はもちろんですが、特に妻が美術系の学校で学んでいたというのもあり、か、「つながるひろがるアート展」での作品展示の協力を強く希望していました。

大橋 店内に飾られた作品を見させて頂きました。展示方法に工夫がされていますよね？

猪口 はい。アバンギャルドな感じに展示しています。これは、妻が「配色が良くて目を引く」というのを主眼に置いて作品を選定して、展示のレイアウトを考えました。

大橋 お客様の反応はどうですか？

猪口 すごく良いですよ。普段からうちに買い物に来られる常連さんたちは、店内の様子がいつもと違う事でまず興味を持ってくれます。展示している作品が「障がい者アーティストの描

いたものだ」と知ると興味湧いて、他の会場にまで観に行くというお客さんも多いんですよ。

大橋 「蔵楽」さんのような一般の人が来るお店での展示は、障がい者アーティストさんたちの作品を広めるにはとても良い機会になりますね。

猪口 この作品を描いた障がい者アーティストさん自身が来店してくれる事もありません。アーティストさんによっては寡黙な人もいらっしゃると思いますが、そんな人もどんな思いでこの作品を描かれたのかを瞳の奥に伺えるような気がして、私も更に作品への思いが深まるんです。



手造り味噌 & とちぎの地酒「蔵楽(くらら)」
栃木県那須郡那須町大字高久乙593-299
TEL / 0287-74-5068
https://www.facebook.com/nasuonomiso/





はじまり

△水越けいこ連載▽

14



シンガーソングライター 水越けいこ

1978年「幸せをありがとう」でデビュー。TBSの朝の情報番組「8時の空」に田中星児と共にレギュラー出演。その後、「ほほにキスして」「Too Far Away」がヒット。現在はダウン症を持つ息子・麗良と2人暮らしをしながら音楽活動と公演活動を続けている。

「麗良」という名前の由来と 息子と文字との「はじまり」

本誌をご覧になっている方の中には、既にご存知の方も多いと思いますが、ダウン症を持つ私の息子は麗良（れいら）といます。

今回は息子の「麗良」という名前の由来についてお話ししたいと思います。

私が3歳の時に母が早逝しました。そのため、私には母との思い出や記憶がほとんどありません。だから、結婚して「義母」が出来た時にはとても嬉しかったのを覚えています。

結婚後は、実母にできなかったことを義母にしてあげたくて、母の日など折々に料理を作ったことがありました。

義母は普段、和食中心の食生活であったせいですが、パエリアなどの欧風な料理を作ると、「まる

でレストランみたいね」と喜んでくれました。今思えば、例え義理の母とはいえ、本当の母親であるかのような関係でした。

その頃から私は、いつか自分の子どもを授かったら、この実母の名前から一字を頂いて「良」の字を使おうと心に決めていました。

それと、昔から私が大好きだったエリック・クラプトンのヒット曲である「いとしのレイラ」から影響を受けたこともあって、息子に「麗良（れいら）」と命名したのでした。

しかし、息子がダウン症を持つことで、将来、難しい漢字を理解して、それを自身で書けるようになるのだろうか？ という心配もありました。出生届を役所に提出してからも、「麗」という字は画数がとても多いので、「怜」や「玲」など、もう少し画数が少なくて書きやすい字を選んでも良かったのではないかと逡巡して

いたこともありました。

息子が3歳になるくらいのこと。文字を視覚から覚えて貰おうと考えて、「あいいうえお」だけを画用紙に大きく書き、一文字ずつ指差ししながら、何度も発音して聴かせました。

そこから何日か経ったある日、息子がスーパーの看板を指差しながら、「あー」と何度も言いました。その看板には「あ○○」とスーパーの名前が書いてあったのです。驚きと同時に嬉しさで込み上げて来た瞬間でした。

他の子どもより少し時間は掛かるかも知れないけれど、ゆっくりと丁寧な何事も教えてあげれば、いつかは多くのことを吸収してくれるはずだと確信した出来事でもありました。

余談となりますが、麗良の「麗」の字ですが、今では息子は、私より遙かに上手に「麗」の字を書いていきます。母の杞憂でした。

映画撮影と長期間の留守番 双方の経験と将来への課題

これから先のこと、私と息子との生活や、息子の将来に関して真剣に考えていかなければならない「課題」が多くあります。

私の仕事と、息子との二人暮らしを両立させるという課題について書かせて頂きます。

18年の夏、映画への出演オファーを頂きました。「Last Letter」という岩井俊二監督の作品（※）です。

それまで、音楽しかやって来なかった私ですから、映画出演には不安もありました。しかし、この経験は私自身にとってもチャレンジでもあったので、有難くお受けしました。

しかし、問題がありました。この映画は宮城県仙台市での撮影ということもあって、現地の10日位の連泊が必要になりました。

日頃、コンサートツアーなどで家を留守にすることはあっても、それはせいぜい1日か2日。数日に渡る場合は、息子を一緒に連れて行くこともできませんでした。しかし、今回は映画撮影の現場ですから、息子をそこに連れて行くわけにはいきません。

小さな頃とは違い、日常の事を自分だけで大抵何でもできるようにしている息子は、カップ麺にお湯を入れて作る、出来合いのお弁当を電子レンジで温めるなどは一人でも出来ます。でも、自身で料理を作ったり、お弁当を作ったりなどに関しては、まだまだ不安な部分があります。

また、もう一つの不安は、10日間も息子を独りにしてしまうこと。それ以上に、私が息子を独りにしたままでは、仕事も手に着かないだろうと考えたからでした。

そこで私は、友人たち、事務所スタッフ、ヘルパーさんたちと相談して、我が家に泊まって息子のサポートをしてくれる人を募りました。どなたも快く引き受けてくださいました。

まず、息子に対する10日分の予定表を作成しました。その予定表に沿って息子のサポートを皆さんにお願いしました。

こうした人たちの協力もあって、10日間に及

ぶ私の留守中でも、息子は何ら問題なく暮らすことができ、映画の撮影も有意義かつ無事に済ませることができました。感謝です。

今回の経験は理解のある人たちに感謝しながらも、冒頭で触れた「課題」に関しての思考を強くする経験でもありました。

考えたくはありませんが、息子より先に私が居なくなる時が、いつかやって来ます。哀しいですが、それが現実です。そのために、息子が独りで出来ることを増やしておかなければなりません。また、生計を立てる術を見付けてあげなければなりません。特に、私と同じようにシングルマザーで、しかもお子さんが障がいを持っているご家庭の場合、より一層それらを考えて行かねばならないだろうと思います。



水越けいこ「僕の気持ち」絶賛発売中!





大橋 はるか

様々な雑誌や書籍でライターとして活動。アミューズメント機器メーカーの公式コスプレイヤーも務め、様々な媒体で活躍。最近では、キャンドルアーティストにも挑戦するなど、多岐に渡って才能を発揮する。

収入は障がい者の生活の基盤 様々な工夫により工賃アップ

大橋 「エルム福祉会」が開所に至った経緯をお聞かせ下さい。

高秀 98年10月に、「エルム福祉会」における最初の施設の「エルムの園」を開所しました。これは、当法人の創設者が、障がいのある人たちの就労支援をするための作業所を、現在「ヒカリノカフェ本店」がある場所に「財団法人エルム会」として立ち上げたのがきっかけです。

大橋 どのような作業をされていたんですか？

高秀 いわゆる「下請け作業」ですね。部品の組み立てなどを行っていたと聞いています。

大橋 こちらの「エルムの園」でも、利用者の人たちが作業されている姿が見えたのですが、ここでも下請け作業のような軽作業をされている



社会福祉法人エルム福祉会
理事／統括本部次長
高秀 伸也さん
Shinya Takahide

モデル・タレント・ライター
大橋 はるか
Haruka Ohashi

んですか？

高秀 そうですね。他には「菌床しいたけ」の栽培もしていて、それを学校給食で使っていただいたり、道の駅で販売するなどもしています。

大橋 流通先の評判はいかがですか？

高秀 有難いことに、評判は上々なようです。学校給食などで好評を頂いていて、多くの注文が入ることがあります。

大橋 創設者は「エルム福祉会」をどんな思いで作られたのでしょうか？

高秀 「障がいのある人を地域で支えたい」という考えがあったようです。地域で支えて行くには何が必要か？ というのを考えた時に、まずは「障がいのある人の収入」という所に焦点を当てたいと思います。とにかく工賃を稼いでもらって「自ら稼げる人になって欲しい」という思いが強かったといえます。その思いが、「エルム福祉会」を開所しようとした発端にもなったようです。

大橋 障がいのある人でも自立した生活を送れるように、ということですね。

高秀 そうですね。

大橋 工賃って、どれくらいなのでしょう？

高秀 例えば「エルムの園」だと月平均が約3万円程度になっています。

大橋 結構多いですね！ 全国平均の倍くらいになりますね。

高秀 はい。全国的に見ても、割と高い工賃ではないかなと思います。そういった所も私たち「エル



社会福祉法人
elm エルム福祉会
栃木県大田原市

**当たり前のことを
当たり前出来る人に。
働いて得た収入は
文化的な生活の一助に。**

栃木県大田原市で複数の福祉施設を運営している「社会福祉法人 エルム福祉会」。1998年の「エルムの園」開所以来、「福祉のイノベーション」というスローガンを掲げ、施設の整備を進めている。障がい児から高齢者まで、切れ目のないケアを目指すエルム福祉会の施設は、障がい者相談センター、カフェ、高齢者施設までと多様だ。どの施設も良い意味で施設然としないモダンで洗練された内外装になっており、サービスのきめ細やかさを感じる。「社会福祉法人エルム福祉会」の理事＆統括本部次長の高秀伸也さんにお話を伺った。



社会福祉法人エルム福祉会
栃木県大田原市中田原381番地1
TEL / 0287-22-8011
http://elm-fukushikai.com/





この建物を寄付したのは元・利用者の鈴木さん。その鈴木さんの名前の一字を冠して「喫煙室 鈴」と呼ぶ。ログハウス風で、内部にはエアコンも完備。

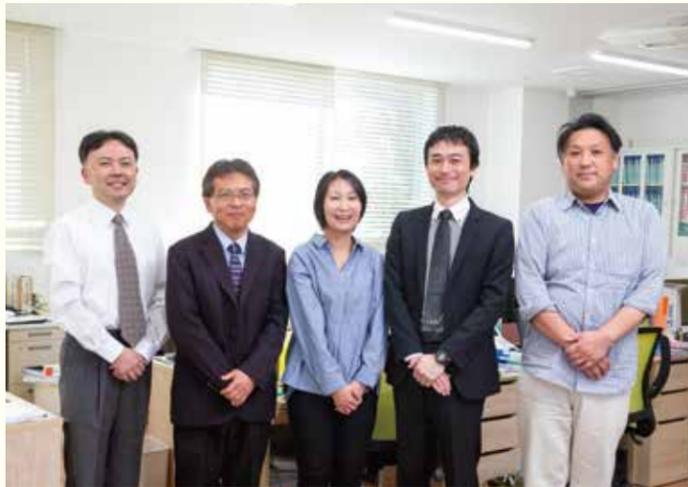
ばならないと思っています。
大橋 多くの施設や事業所を運営されていますから連携は重要ですね。
高秀 はい。トータルケアで、利用者さんより良い信頼関係を築ければ、と思っています。
大橋 今後の展望があればお聞かせください。
高秀 障がいのある人を十分に受け入れられるよう施設を拡充して行きたいのと、私たちエルム福祉会としては、これからも地元の大田原市に根差した福祉を展開して行きたい、と考えています。その為には、地域の皆さんから信頼を得ることが非常に大切だと思っています。例えば何か困ったことがあった時に、「とりえずエルム(福祉会)に聞いてみようか」と言ってもらえるような福祉法人になれたら、ようやく地域の人たちに認められたのかなと思えるようになるでしょう。
大橋 大田原の地域にはまだ受け入れられていないと感じる所があるのですか？

話し合っているんですね。
高秀 そうです。あとは、利用者さんご自身で小遣い帳を付けて貰っていて、自身でやりくり出来るようなお手伝いもしています。
大橋 お金の使い方もここで学べるんですね。
高秀 それも、生活支援の重要な一部として捉えています。私たちは、就労支援の力を入れている法人でもあるので、就労で稼いだお金の使い方まで視野に入れてケアとサポートしています。
大橋 この構内にある喫煙所は当時の利用者さんからの寄付だという話を伺いましたが？
高秀 はい。私が入職する前の話になるので、一般就労が決まったある利用者さんが寄付してくれたそうです。内部にはエアコンも完備されているので、とても快適なんですよ。
大橋 それはすごいですね。稼いだお金で寄付してくれたという事でもね。
高秀 はい。こういった形で還元されるというのは非常に有難いですし、嬉しいことです。
大橋 胸がいつぱいになるエピソードです。
高秀 当時のスタッフも感無量だったでしょう。やっていた良かったなと思った瞬間だったろうと思います。
大橋 とても素敵なことだと思います。高秀さん自身が仕事にやりがいを感じるのとはどんな時ですか？
高秀 やはり、利用者さんが一般就労を遂げた時は嬉しく思います。それと、利用者さんが日々こ

高秀 「認知度」という点ではまだまだですね。16年に「蜂巢小珈琲店(※)」をオープンしたのですが、その辺りから徐々に認知度が高くなってきているのかなあ、とは感じています。
大橋 廃校になった小学校をリノベーションしたカフェですね。メディアで扱われることもあって、認知されていると思いますか？
高秀 はい。多くのお客様に来店して頂いています。現代は児童の数が減って廃校になる小学校が多いんです。それをどう活用していくか？という問題解決の意味もあるんですよ。
大橋 なるほど！
高秀 ですから、そのモデルケースとして各行政機関の関係者が視察にいらっしやる事も多いですね。
大橋 最後に、本誌の読者にメッセージなどがあればお願いします。
高秀 障がいのある人が増えているという現状から、これからは「障がいのある人が地域で生活をする」ということが多くなっていくと思います。だから、それを受け入れる気持ちというか、温かく見守って頂きたいなあと思います。私たちとしても、多くの人たちの理解を得られるように、これからも様々な活動を通して地域の人たちと積極的にコミュニケーションを取って行きたいと思っています。2店舗ある「ヒカリノカフェ」など、気軽に立ち寄れる施設もありますので、ぜひご利用頂きたいと思います。
大橋 貴重なお話をありがとうございました。



※hikari no Café 蜂巢小珈琲店
栃木県大田原市蜂巢 295
詳細は P27 に掲載。



社会福祉法人 エルム福祉会、理事及び統括本部次長 高秀さんと職員の方々の写真。

ここで生活をして、それが成り立っているという所にも嬉しさを感じます。
大橋 高い工賃が支払えているからこそこ、という証でもありますね。
高秀 そうですね。利用者の皆さんの生活が少しでも潤って行くのを見ることができた時に、私はやりがいを感じます。
大橋 現在、何か課題などはありますか？
高秀 まず一つ目は、障がいのある人が増えているという現状があって、施設としてのキャパシティがすぐにいっぱいになってしまおうという問題があります。二つ目は、当福祉法人では各事業所でトータルケアをさせて頂いているのですが、事業所間の連携を、今以上にしっかりと取って行か

相談をしたくても、

そもそも何を

相談すればいいのかが

分からない

私が本誌の取材で訪ねた先々で良く耳にした言葉です。

私は相談員として実際に福祉の現場で働く人の声を聞いてみたくまりました。

「相談される側はどんな気持ちなのだろう?」

という好奇心もそこにはありました。



取材・文
渡邊 希望
俳優・脚本家・演出家

1988年神奈川県川生まれ。大学時代に現代小説を専攻。2015年に「劇団ショートホープ」を立ち上げる。俳優・脚本家だけでなく、演出家としても活躍し、音響も手掛けるなど、多岐に渡って才能を発揮する。ここ1年で3本の脚本&演出をこなし、その舞台はいずれも好評と人気を博している。

受けたりなどの対応をしているそうです。

相談員の業務内容の一つには「勉強会」もあるとのこと。自治体の相談員たちが集まって、実際に相談を受ける際の対応についてや、利用者さんの相談内容について意見交換をすることがあるそうです。

私は渡邊さんに、これまでに受けた相談内容を匿名を条件に、いくつか聞かせて頂くことができませんでした。それは本当に多種多様で、中には「家の水が出ない」だとか、「禁煙が上手くいかない」という相談を受けたこともあるとか。「水が出ない」ことについては、なんと実際に原因を調べ、に現地まで行ったこともあったそうです。その話を聞いて私は、つい笑ってしまいました。

私と一緒に渡邊さんも笑いながら、「何でも屋さんみたいですよ」と自身の仕事を称し、最後には「相談することがあったら何でも相談してください」と、正に「何でも屋さん」のように振る舞ってこの話を締め括りました。

対談が進み、話題は「相談そのものについて」に変わりました。それは、単に「相談することについて」というよりは、「人生における相談の役割」についての話です。

人が生まれ、生活をし、最後にそれが終わる。当たり前のことと言ってしまえばその通りですが、渡邊さんは話の前提として「それが自然な生き方」だと表現しました。

しかし、障がいがあるなどの理由で辛い思いをしている人たちは、その「自然な生き方」ですら全うするのが難しい場合があるのだと渡邊

さんは語りました。

それは「障がい」によって起こり得る生活の不自由さについてだけの事ではありませんでした。周囲の「障がい」への理解が足りないことで起きる、時に理不尽とも取れる「障がい」の扱われ方があることも、渡邊さんは示唆していました。だからこそ、そうならないための手助けは必要なのだ。

それでも、渡邊さんは「相談を通して答えを提示するわけではない」と言います。「この世界は、どれが間違いで、どれが正しいということはない」という信条があるからだといいます。だからこそ、「相談」という形を取って、何らかの困難があった時には、何が良いのか? どうすれば良いのか? を相談者と一緒に考えて行くのが相談員の使命だと。「何でも私たちに相談してください」とも言いました。

実はこの対談中、渡邊さんは「何でも私たちが相談してください」と、何度も口にしていました。渡邊さんが同じ言葉は何度も発した理由は、対談の後半で明かされました。そこにはとても深い意味があったのです。

それは、渡邊さんの「私たち（相談員）は誰かが困っていても、相談をしに行く」という第1歩目だけは手伝えることができない」という言葉でした。

ここで私は思い至りました。というより、再認識したと言った方が適切かもしれません。

それは、「助けられる人は助けたい」という根源的な思いが人にはあるということ。

障がいの「声」を聞く

つむぐ

～こえをきく～

何が正解が分からなくても
「何が良いか」は話し合える

特別編「福祉相談員の声を聞く」

いつもであれば、障がいのある人たちにお会いし、その「こえをきく」のが本ページの趣旨です。しかし今回は、福祉の最前線で障がいのある人や、そのご家族からの相談を直に受けている「相談員」にお会いし、その役割や仕事内容などをお聞きするという特別編としました。

17〜20ページに掲載の記事内に登場する、栃木県大田原市にある「エルム福祉会」。ここでは、幅広い年齢層に焦点を当て、生活のトータルケアを目指すという福祉事業所です。

様々な状況に置かれた人たちが利用する同事業所で、相談員として働く「渡邊佳世さん」にお話を伺いました。

一番最初に、私は渡邊さんに「そもそも相談員とはどういう仕事なのか」を尋ねました。

渡邊さんの場合は、自身が働く施設の利用者さんたちの相談を受ける事ももちろん、地域にお住いの人たちからも相談を受けたり、自治体からの委託で「障がい」に関することの相談を

これは当たり前なのかもしれませんが、相談員さんたちは、それを自分の仕事として、ひいては人生を賭して、この気持ちと対峙し続けている人たちでもあります。「困っている事があるなら相談をして欲しい」と人一倍思っている人たちに相違ありません。

しかし、先に書いたように、「誰かに相談をする」という行為自体が簡単ではない事も少なからずあります。

それを渡邊さんは人よりずっと深く理解していた。だからこそ、「何でも相談してください」と言い続けていたのでしょう。間口を広く開けているのだ。

何が正解なのか? が存在しないこの世界。だからこそ、そんな時は「相談」をする。自分の考えが良いかどうかを自分だけではなく誰かと一緒に考える。面白い考え方だと思いました。



社会福祉法人 エルム福祉会
障がい者相談支援センター エルム
センター長/相談支援専門員

渡邊 佳世さん Kayo Watanabe



相談をするというのは勇気のいる事でもあります。お互いの関係性も重要ですし、自分の弱い部分を相手に打ち明けねばならないこともあるでしょう。私自身、とても苦手な事です。

「この世界には明確な正解も不正解も存在しない」というのは、至極当然なようにも聞こえますが、私にとっては逆にこれがとても面白く感じました。

そんな曖昧な世の中にも確かなものがあるとすれば、その一つが「相談をする」こと。様々な選択に明確な答えは無くても、一人ではなく誰かと、周りにいる人たちと一緒に、答えを模索していく。それも一つ「生きる事」だと言えるのかもしれない。そんなことを思っていました。

「相談」には自分が答えを出せるということ以外に、もう一つ重要な側面があります。今回は、それを題材にして物語を紡いでみました。



王子さまはその言葉を聞き、しばらく何もせずに立ち尽くしていましたが、やがて大声で泣き出してしまいました。何人かの家臣たちが王子さまの泣き声を聞きつけて王子さまのもとへ集まりました。何とか話を聞こうとしますが、王子さまは泣くばかりで、聞く耳をもちません。

そ

こへ、女王さまが通りかかりました。王子さまは駆けよって女王さまにすがり付き、経緯を説明しました。

すると女王さまは、ひざを曲げて王子さまと目の高さを合わせました。そして、

「お弁当が気に入らなかつたのなら、あなたがコックと一緒に中身を考えれば良かったんじゃないかしら？」

と言いました。すると王子はこう答えました。

「家臣たちは僕を嫌っているから、あまり話をしたくない」

王子さまは、実は自分がわがままであることを自分でも分かっています。それでも自分を止められず、家臣たちを困らせてしまうから、出来るだけ話をしないようにしていたのです。

それを聞いた女王さまは少し悩んだ後に笑顔になって、王子さまに提案をしました。

「それなら、もっとわがままになってみたらどうかしら」

王子さまはキョトンとしました。女王さまは続けます。

「まずは王さまに気持ちを伝えて来なさい」

訳が分からないまま、王子さまは王さまの部屋に行き、自分の気持ちを打ち明けました。

或る王子さま



或

る処に、わがままな王子さまがいました。世話係が気に入らない服を持ってくるとその服をグシャグシャに丸めて乱暴に投げてしまいます。勉強をしても、解らないことがあると黙ってすぐに部屋から出て行くことも。

しかも、王子さまは家臣とは口を利きません。王さまと女王さまとだけ、話をするのです。

王子さまの家臣たちは、そのわがまま振りにとても困っていました。

ある日、王子さまは大好きな王さまと久しぶりにピクニックに行くことになりました。

その日は、雲一つない快晴、王子さまは世話係の選んだ服も気に入りました。

しかし、キッチンにお弁当を受け

取りに行った時、王子さまは急に機嫌が悪くなりました。コックが作ってくれた

お弁当に野菜がたくさん入っていたのです。

王子さまは気に入らず、お弁当を引っくり返してしまいました。

コックは困っていました。そこへ、外出の準備を済ませた王さまがやってきました。王さまは王子さまと地面に落ちたお弁当を見て、

「ピクニックは中止だ」

と言い、自分の部屋に帰ってしまいました。



「ピクニックに行きたい」

すると王さまはこう答えました。

「それならコックに謝ってきなさい」

おやおすと王子さまはコックのもとへ戻りました。コックはまだお弁当を片付けています。女王さまもまだいます。

王子さまは、あまり話したことがないコックへの謝り方がわかりません。だから代わりに、その片付けを手伝うことにしました。コックは王子さまに軽く頭を下げた後、どこか悔しそうにこう続けました。

「王子さま、ごめんなさい。お弁当が気に入らなかつたのですよね」

王子さまは謝られて驚きましたが、もっとわがままに振る舞うべく言いました。

「たまごのサンドイッチが食べたい」

「わかりました」

コックはそう承諾した後に、

「相談してくれてありがとうございます」

と言いました。王子さまは更に驚きました。コックは嬉しそうです。

「よし、これで王子さまが食べたいものを作れる。ああでも野菜も少し入れさせてください。ピクニックへ行っても風邪を引かないように」

王子さまは嬉しそうなコックの言葉を聞いて、気持ちがとても晴れやかになりました。そして、「今まで相談しないでごめんなさい」とコックに謝りました。





障がい者の雇用問題⑤

就労時に発生するトラブルの解決手段



表参道パートナーズ法律事務所
弁護士／安部 晃平

1986年福岡県出身。2012年上智大学法科大学院修了。2013年弁護士登録。2016年より現職にて、中小・ベンチャー企業の労務管理、訴訟を中心に、各種企業法務を取り扱う。表参道パートナーズ法律事務所所属。

トラブル発生時の対応 様々な紛争解決手段とは？

これまで4回に渡って、「障害者雇用促進法」が定める法規制について解説してきました。今回は、企業がこれらの法規制に違反している場合、労働者側としてはどのような手段が取れるのか考えてみたいと思います。

法的なトラブルが発生した場合、最終的な解決手段に、「訴訟」があります。訴訟は紛争の内容に関係なく、あらゆる紛争に対応した唯一無二の紛争解決手段といえるでしょう。しかし、訴訟では法廷で当事者の主張と証拠を真っ向からぶつけ合うため、時間が掛かるうえ、精神

的にも負担が大きい手続きです。

訴訟はあらゆる内容の紛争に対応しているが故に、個々の紛争の特殊性に対応できないという面もあります。特に、障がいのある人がどのような点で困難を抱えているかは極めて個別性の強い問題ですので、より柔軟な解決手段が必要になります。

そこで、法律が定める様々な紛争解決手段の特徴を概観していこうと思います。

1 事業主の自主的解決

事業主は、不当な差別的取扱いや合理的配慮の提供義務に関して、障害者である労働者から苦情の申出を受けたときは、苦情処理機関に処理を委ねる等、その自主的な解決を図るよう

に努めなければならないとされています(障害者雇用促進法・74条の4)。

苦情処理機関とは、事業主を代表する者及び当該事業所の労働者を代表する者を構成員とする当該事業所の労働者の苦情を処理するための機関のことをいいます。

自主的な話し合いではありませんが、職場の実態をよく知る事業主と労働者が話し合いを通じて解決を図ることが、適切な問題の解決に繋がる可能性が高いでしょう。

2 都道府県労働局長による 助言・指導・勧告

都道府県労働局長は、不当な差別的な取扱いや合理的配慮の提供義務に関する紛争について、当該紛争の当事者からその紛争の解決につき援

5 訴訟

原告被告間の権利義務の存否に関する紛争につき、裁判所による判断を求める手続きです。訴えを提起された者の意思に関わらず、最終的な判断を得ることができ、当該判断を守らないう当事者に対して強制執行することができるという点が最大の特徴です。

もともと、訴訟にはデメリットも存在するため、なかなか訴訟までは踏み出せない方も多くおられます。

このように、紛争解決手段には様々なものがあり、どれがベストな手段であるかは個々の事情により変わってきます。お一人で悩まず、ぜひお近くの弁護士にご相談してみてください。



表参道パートナーズ法律事務所
東京都港区南青山6-2-9 南青山NYKビル9F
TEL..031680413718



<http://omt-partners.jp/>

3 紛争調整委員会による調停

都道府県労働局長は、不当な取扱いや合理的配慮の提供義務に関する紛争について、当該紛争の当事者から調停の申請があった場合において、当該紛争の解決のために必要があると認めるときは、紛争調整委員会に調停を行わせるものとされています(障害者雇用促進法・74条の7第1項)。

調停は、当該紛争について知見を有する第三者を交えた話し合いの場であり、紛争調停委員会の委員の中から指名された3名の調停委員によって行われます。

委員会は、調停のために必要があると認めるときは、関係当事者の出頭を求め、その意見を聴

くことができます。そして、委員会は、調停案を作成し、関係当事者に対しその受諾を勧告することができるとともに、調停による解決の見込みがないと認めるときは調停を打ち切ることができます。

調停の場合も、事業主は、障害者である労働者が調停の申請をしたことを理由として解雇その他の不利益な取扱いを行ってはなりません(障害者雇用促進法・74条の7第2項)。

4 労働審判

労働審判は、後述する訴訟と同じく裁判所を通じた紛争解決手段であり、裁判官である労働審判官1名と労働関係の専門家である労働審判員2名とで組織する労働審判委員会が、3回以内の期日で審理し、調停を試み、調停がまとまらなければ審判を下すという手続きです。

調停が試みられるという点では紛争調整委員会による調停に近く、労働審判では、例えば合理的配慮に関する紛争に関して、バリアフリー設備の設置など合理的配慮の内容を定めるような事項を柔軟に定めることもできます。

他方で、調停が成立するか審判が確定したときは、その内容を守らない当事者に対して強制執行できるという点では訴訟による判決に近い性質の手続きです。

募集&告知

各種募集と告知

布施博または大矢真那が取材に伺う「訪問先」を募集しています。また、当財団に対するご支援とご協力をお願いを掲載しています。

イベント情報&店舗情報など

障がい者が働く企業や団体からの情報や告知

障がい者が働く施設や団体のイベント情報、その他の情報、各種の告知、一般財団法人メルディアからのお知らせなどを掲載しています。

布施博&大矢真那の訪問先／取材先を募集しています



障がい者を雇用する企業や団体、障がい者施設、学校、場所、スポーツ会場などへ布施博または大矢真那が直接お伺いして取材させていただき、本誌にてご紹介いたします。

■応募条件

障がい者を雇用している(雇用予定を含む)企業や団体、障がい者施設(学校を含む)、障がい者が活躍されているスポーツ団体、スポーツ大会、地域、場所など

■お問い合わせ

下欄にある「一般財団法人メルディア」事務局まで電話またはメールなどにてご連絡ください

※取材に関して費用等は一切かかりません



募集や告知などの情報を無料で掲載しています

一般財団法人メルディアが発行する「月刊メルディア(本誌)」では、障がい者を雇用する企業や団体、各種の養護施設または学校などの募集ことや告知などをP27の情報ページに無料で掲載しています。「障がい者を雇用したい」「障がい者施設で開催するイベントを告知したい」などがありましたら、下記の一般財団法人メルディア事務局までお問合せください。掲載に関しましては情報ページ用の「フォーマット」をご用意してあります。フォーマットに則して広告内容を準備していただく必要があります。掲載基準ならびに掲載フォーマットにつきましては事務局までお問い合わせください。

一般財団法人メルディアの活動方針ならびに本誌の編集方針にそぐわない内容、冊子の配置協力をお願いしている各企業の基準に抵触する内容、営利目的のみの内容、特定の宗教や信条に関わると判断される内容、反社会的と判断される内容、公序良俗に反する内容等については掲載をお断りする場合があります。あらかじめご了承ください。

一般財団法人メルディアへのご支援とご協力を募集

障がいのある子供を持つ親の苦勞や将来への不安は、他の人には計り知れないほど大きなものがあります。さらに、それが寡婦・寡夫家庭であった場合、経済的な負担、苦勞、不安なども一人で背負わねばならない状況に置かれることもあります。

私たち「一般財団法人メルディア」は、会報誌「月刊メルディア」を通じて、誌上に厳選した有益な情報を掲載することで、周囲との情報交換もままならず不安を抱える人たちの情報源として、その一助となることを目指しています。

私たち「一般財団法人メルディア」の活動に対するご支援(取材協力・協業の相談・各種支援・支援金・寄付)など、当財団の趣旨に賛同してご協力を頂ける企業・団体・個人を募集しています。下記にある当財団の事務局までご相談ください。

お問い合わせとご相談はこちら 一般財団法人メルディア

〒163-0632 東京都新宿区西新宿 1-25-1 新宿センタービル 32F
一般財団法人メルディア 事務局／担当：後藤(ごとう)・鷺坂(さぎさか) 宛て
TEL: 03-5381-3213 / MAIL: org@gf-meldia.com



ホームページと Facebook

一般財団法人メルディアのホームページでは当財団の取り組みやイベント情報、取材の裏話など、情報が盛りだくさん! Facebookページのご用意もあります。是非とも一度、ご覧ください。

hikari no café / 蜂巢小珈琲店



■場所
栃木県大田原市蜂巢295
TEL: 0287-54-2255
■営業時間
AM11:00 ~ PM5:00 (L.O./PM4:30)
ランチタイム AM11:00~PM2:00
※毎月、第三水曜日が、全体研修のため
13:30オーダーストップ 14:00閉店 となります
■定休日
日曜・月曜
■店舗紹介
廃校となった小学校をリノベーションした素敵なカフェ。
新鮮野菜たっぷりのランチがおすすめです。
■URL / <http://www.hikarinocafe.com/hachisu/>

Cafe



いま求められる雇用の「質」とは 目黒区障害者就労促進フェア



目黒障害者就労支援センター
CITY OF MEGURO EMPLOYMENT SUPPORT CENTER

■目黒区障害者就労促進フェア
埼玉県立大学教授朝日雅也氏、株式会社ゼンショービジネスサービスマネジャー犬山貴文氏より、今求められる雇用の「質」についてお話しいたします。

■開催詳細

日時: 2019年1月15日(火)/13:00~16:40
場所: 目黒区八雲1-1-1 めぐろパーシモンホール
■主催者/お問い合わせ
目黒区障害者就労センター
目黒区中央町2-32-5 スマイルプラザ中央町1F
TEL / 03-5794-8180(担当/野村・中村)
■URL / <http://meguro-syuro.jp/>

※上記は「目黒区障害者就労センター」の依頼により掲載しています。お問い合わせなどは上記主催者までお願いします。



AD

お便り募集!

あなたが知りたいことを
あなたに代わって編集部が調べます

読者の方々が障がいに関して「知りたいこと」、「疑問・質問」、「法的な情報」、「扶助情報」などをみなさんに代わって編集部が調べ、取材し、記事にしたいと思えます。「こんなことを調べて欲しい」、「こんな情報があるが詳細が知りたい」など、どんなことでも構いません。左ページに記載の「一般財団法人メルディア事務局」まで、メールまたは郵便にてお送りください。

※お寄せいただくご要望の全部にお応えすることはできません。また、掲載する記事に関してはメルディア事務局ならびに編集部にて選択させていただきます。予めご了承ください。



一般財団法人
MELDIA

本ページに情報を無料で掲載しています。情報掲載を希望される場合は左ページ(P28)の情報掲載要項を良くお読みになり、一般財団法人メルディア事務局までお問い合わせください。掲載ガイドラインや記事のフォーマット等にも一般財団法人メルディア事務局までお問い合わせください。 ※無料掲載規定に合致しない案件は掲載をお断りする場合があります。予めご了承ください。





Design Your Life

MELDIA
GROUP

同じ家は、つくらない。

14 MELDIA CONTENTS 2019 FEB.

01 | 障がい者を応援

株式会社あしか／東京都新宿区

06 | 一般財団法人メルディアとは？

メルディアの基本理念、財団概要、支援事業

07 | 布施博が訊く

「農福連携」について厚労省の職員に訊く

11 | つながるひろがるアート展NASU

那須で開催された障がい者アーティストたちのアート展

15 | 水越けいこ連載「M size / はじまり」

水越けいこが愛息・レイくんとの日々を綴る

17 | 福祉法人訪問

社会福祉法人 エルム福祉会／栃木県大田原市

21 | つむぐ～こえをきく～

特別編／脚本家・渡邊希望が相談員の「声」を聞く

25 | 弁護士が教える「障がい者と法律」

表参道パートナーズ法律事務所／弁護士・安部晃平

27 | イベント情報と店舗情報・その他

障がい者が働く施設や団体の情報・店舗情報など

28 | 募集と告知

取材先募集と協賛の募集など

月刊 MELDIA Vol.14 / 2018年12月25日発行

発行元 / 一般財団法人メルディア事務局

発行人 / 小池信三

事務局 / 榎本喜明、後藤正善、鷺坂浩章

編集 / 株式会社サン・オフィス

編集人 / 東宮恵美

編集長 / 山口慎市

進行 / 東宮恵美、山口慎市、谷田貝亘介(新村印刷)

編集部 / 東宮恵美、都筑亮太、村田保則、渡邊希望

ライター / 水越けいこ、布施博、大矢真那、安部晃平、山口慎市、渡邊希望、横関寿寛、大橋はるか

カメラマン / 吉岡晋(PMJ)、鈴木忍(PMJ)

ヘアメイク / 鳥取まりこ

デザイン / 有限会社フレッシュ・アド

印刷製本 / QREAS株式会社

協力 / MELDIA GROUP 株式会社 三栄建築設計、
就労継続支援A型事業所 株式会社あしか、
特定非営利活動法人日本セルフセンター、
社会福祉法人 足利むつみ会、阿由葉洋平、
つながるひろがるアート展NASU 実行委員会、ギャラリーバーン、
蔵楽、猪口尚久、社会福祉法人 エルム福祉会、高秀伸也、渡邊佳世、
津久井貴之、表参道パートナーズ法律事務所、
TDPミュージックパブリッシャーズ、
株式会社PHOTO MIO JAPAN、新村印刷株式会社

※敬称略／順不同

本誌の無断転載・複製を禁じます

2017-2019©All Rights Reserved. 一般財団法人メルディア／月刊MELDIA
MELDIA GROUP 株式会社 三栄建築設計 / 株式会社 サン・オフィス



次号予告

MELDIA VOL.15

2019年1月25日
発行予定

一般財団法人メルディア

〒163-0632
東京都新宿区西新宿1-25-1
新宿センタービル32F

一般財団法人メルディア事務局

TEL: 03-5381-3213

MAIL: org@gf-meldia.com



一般財団法人
メルディア
Meldia Foundation

メルディアグループ

<http://www.meldiagroup.com/>

株式会社三栄建築設計

〒163-0632

東京都新宿区西新宿1-25-1

新宿センタービル32F



まだ25年、
これからのメルディア